

施策番号 4-1-2	施策名 生涯学習の推進	基本目標	個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり		
		政策名	豊かな心を育む人づくりの推進		
主管課 社会教育課	施策関係課	課長名	松浦 智幸	内線	517

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果	
生涯学習の機会や場の提供により、学習意欲に対応した生涯学習環境の充実を図ります。		町民	生涯にわたって学習できる環境の整備を行う					町民一人ひとりが自己の充実を図り、心豊かに暮らすことができるまちづくり	
成果指標	説明	単位	23年度(策定時)	27年度	28年度	29年度	30年度(目標)		
① 図書館資料年間貸出数	図書館調べ	冊	184,137	177,227	169,498	190,000	190,000		
② 1年間に生涯学習(学習経験)を行った町民の割合	住民意識調査	%	55.9	56.9	56.4	60.0	60.0		
③ 生涯学習の機会が充実していると思う町民の割合	住民意識調査	%	35.7	39.5	39.8	40.0	40.0		
成果指標設定の考え方	①年間図書資料貸出数を策定時目標である184,137冊から段階的に190,000冊までの増を目指す。 ②・③公共施設以外で行われる学習機会の利用者も想定され、実態の把握は困難であるが、それぞれ60%・40%以上の目標値を維持する。なお、③について町・村は30%以上が多い。								

2. 施策の事業費

	27年度決算	28年度決算
施策事業費(千円)	105,988	102,293
人工数(業務量)	2,5745	2,7593

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成28年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	成果指標①図書館貸出数は前年度より低下 →小中学校図書館の充実が図られていることが主な要因 成果指標②③は前年度と同程度
②平成30年度の目標値達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	・学校図書館貸出数を含めた場合は目標数値はクリア →夏フェスや学校での出張図書館など、館外奉仕事業の展開充実により、貸出数の増加や成果指標③の達成は可能 ・ウーマン、シニアに加え、平成27年度からどんぐりカレッジも展開 →成人教育活動や公民館、図書館講座の内容充実により成果指標②及び③の目標達成は可能
(2) 施策の成果評価に対する平成28年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	家庭教育学級活動支援事業 成人教育活動運営事業 図書・視聴覚資料の貸出・保存事業 図書館ボランティアサークル活動支援事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・成人教育活動の「シニアライフカレッジ」、「ウーマンカレッジ」、「どんぐりカレッジ」は、参加者の主体性を活かした事業展開を図った。 →シニアやウーマンカレッジの一部講座は、公開講座として一般町民の方も参加可能として、事務事業の充実につながった。 ・家庭教育学級の継続支援とともに、より実践的な勉強会として「めむろ家庭教育講演会」を開催し家庭教育の充実を図った。 ・図書館では、これまでの季節や特別展示の工夫などの取組を継続するとともに、ボランティアとの協働により開催している図書館まつりの実施が町民に浸透し来場者数も増加し、事務事業の充実につながった。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の概念である「いつでも・どこでも・誰でも」自由に学べる学習環境の整備が求められるている。→学習形態の多様化などに対応するために住民のニーズにともなう事業の検討。 ・社会教育施設の設備や備品の計画的整備、また、老朽化等への対応として、長寿命化計画と計画的な施設整備を推進。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の夏季高温時のエアコン空調の設置や冬季間の室温上昇と読書環境充実のための施設整備。

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

課題① 生涯学習機会の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者学級及び成人教育における学習カリキュラム等の検討。図書館講座などとの連携。 課題② 社会教育施設の改善が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館、集団研修施設「かっこう」の施設・備品の計画的な更新整備。 ・図書館開館のエアコン空調などの施設整備。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	●生涯学習については、カリキュラム等を随時変更し、利用者のニーズに合わせた事業展開を行っており、施策として前進していると言える。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	●現在のカリキュラムの参加者ニーズのみならず、幅広いニーズを捉え、町民の生涯学習にとって最適な手法を検討してもらいたい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	●成果指標は目標値に近づいており、成果指標①の低下は学校図書の実績が要因であることから、施策として前進していると評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	●町の動きを敏感に捉え、図書館展示に反映してもらいたい。 ●町の事業への参加減少も、個人の趣味等、選択肢の充実の結果であれば悪いことではない。それを踏まえつつ、周知の徹底や事業の充実も図って欲しい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					